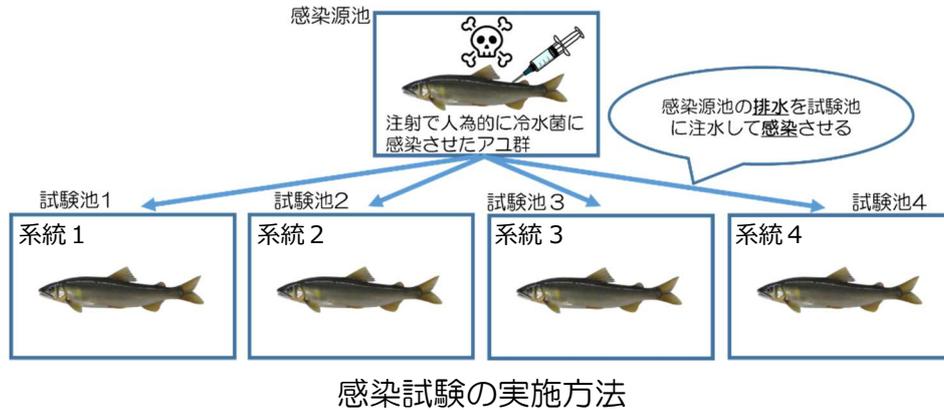


アユ冷水病感染試験を実施しました

アユ冷水病は現在も養殖場や河川漁場で大きな被害をもたらしています。水産試験場と栃木県漁業協同組合連合会では、県産アユの冷水病に対する抗病性を感染試験によって評価し、生き残りの良い系統を生産の軸軸にすることで、冷水病の被害軽減を図っています。令和3年度および令和4年度、合わせて2年分の冷水病感染試験の結果を紹介します。



○令和3年度

試験を実施した系統

1. 従来七色系（県漁連内で継代していた七色ダム湖系・F6）
2. 新七色系（新たに導入した七色ダム湖系・F1）
3. とちぎ系（鶴田ダム湖系と従来七色系のハイブリッド・F1）
4. 新とちぎ系（那珂川系と従来七色系のハイブリッド・F1）

試験条件

試験期間：令和3年5月20日～6月10日（菌接種後21日間）

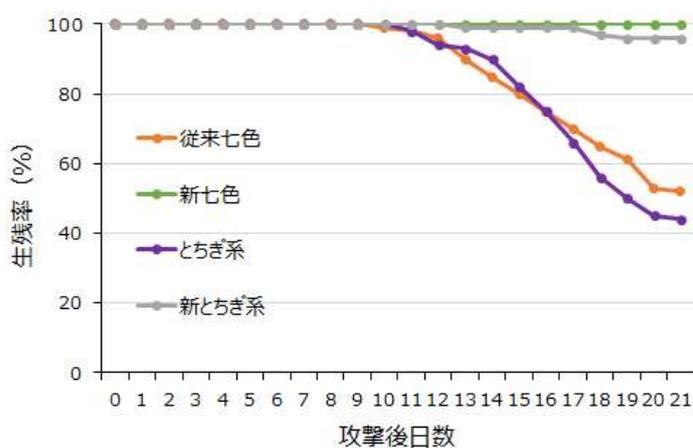
水温：17.2～21.0℃

使用した試験池：15m²コンクリート角池

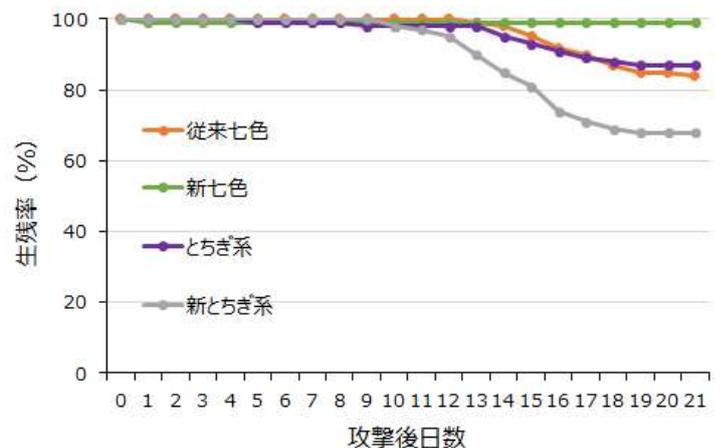
供試菌株：A型株（県内流行株）およびC型株（西日本流行株）

供試尾数：100尾/池（感染源池 約3,000尾/池）

結果



A型株(県内流行株)に対する生存率の推移



C型株(西日本流行株)に対する生存率の推移

いずれの菌株に対しても新七色系が最も抗病性が高いことがわかりました。また、県内流行株に対しては、七色系に次いで新とちぎ系の抗病性が高く、西日本流行株に対しては、従来七色系ととちぎ系の抗病性が高いことがわかりました。

○令和4年度

試験を実施した系統

1. 七色系（新七色系・F2）
2. 全雌系（新とちぎ系の全雌種苗・F1）
3. 那珂川系（F6）
4. ダム湖系（鶴田ダム湖系のF13）

試験条件

試験期間：令和4年5月20日～6月10日（菌接種後21日間）

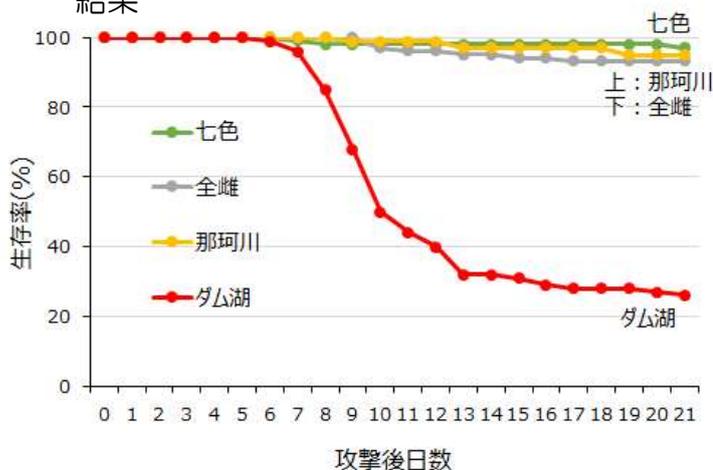
水温：15.5～20.3℃

使用した試験池：15m²コンクリート角池

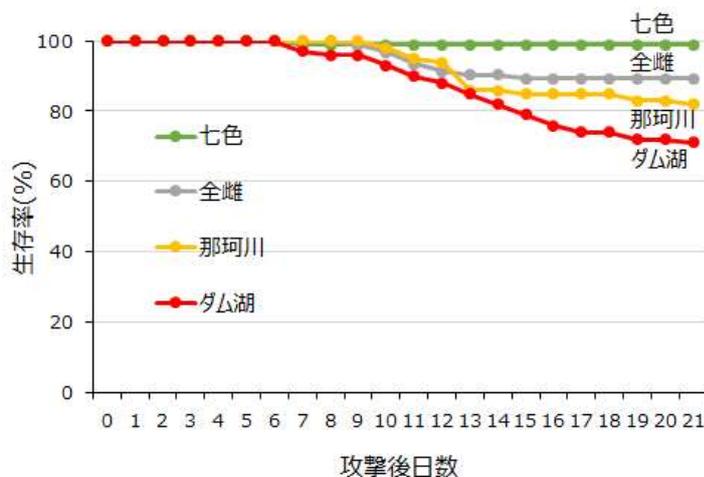
供試菌株：A型株（県内流行株）およびB型株（全国流行株）

供試尾数：100尾/池（感染源池 約3,000尾/池）

結果



A型株(県内流行株)に対する生存率の推移



B型株(全国流行株)に対する生存率の推移

いずれの菌株に対しても七色系が最も抗病性が高いことがわかりました。県内流行株については、七色系に次いで全雌と那珂川系の抗病性が高く、全国流行株に対しては、七色系に次いで全雌の抗病性が高いことがわかりました。

これらの結果を今後の県漁連におけるアユ種苗生産や放流の計画に活かしていきます。